

抗がん剤治療に関する説明及び同意書

●あなたの病気・治療法について

シスプラチン+ペトレキセド+ニボルマブ+イピリムマブ療法

1 日目にシスプラチン、ペトレキセド、ニボルマブおよびイピリムマブの点滴を、22 日目にシスプラチン、ペトレキセドおよびニボルマブの点滴を行います。その後、維持療法としてニボルマブの点滴を 3 週間毎、イピリムマブの点滴を 6 週間毎行い、効果が持続している間、繰り返します。

シスプラチン+ペトレキセド+ニボルマブ+イピリムマブ療法(スケジュールと方法)

薬剤	方法	治療日(目安)
ニボルマブ + イピリムマブ + ペトレキセド + シスプラチン	点滴	<p>The diagram shows a timeline with two cycles. The first cycle has arrows for 1st day (all four drugs) and 22nd day (three drugs). A dashed vertical line marks the start of '維持療法' (maintenance therapy), which includes arrows for 1st and 22nd days of the second cycle.</p>

●副作用について

副作用の現れ方、出現頻度には個人差があります。抗がん剤による副作用は、薬で予防できるものや、症状を和らげることができるものもありますので、副作用が辛いと感じたときにも担当医にお知らせください。

起こりやすい副作用	白血球・血小板減少、貧血、だるさ、腎機能障害、吐き気、吃逆(しゃっくり)、発熱、皮膚障害、甲状腺機能障害、神経障害、副腎障害
時として起こる副作用	便秘、しびれ、脱毛、かゆみ、大腸炎・重度の下痢、1 型糖尿病(劇症型を含む)、脳炎、肝機能障害、下垂体機能障害、眼の異常、薬剤注入による反応
まれにしか起こらないが重い副作用	間質性肺炎、アナフィラキシーショック、重症筋無力症・筋炎

●起こりやすい副作用

① 白血球減少

白血球は、細菌から身を守る役割(免疫機能)を担っているので、ある一定以上の数がないと感染症にかかりやすくなります。最も白血球数が低下する時期は投与 7 日から 14 日目とされています。この時期あたりで発熱を認めた場合には、早期に担当医にお知らせください。

② 血小板減少

治療開始から 1~2 週間目に最も低下します。血小板は止血に重要な機能を果たしています。血小板の数が極端に低下した時や(2 万未満)、出血がみられる場合などは、血小板輸血を行うことがあります。

③ 貧血

酸素を全身に運ぶ赤血球が減少することがあります。1~2 カ月目以降に起こることがあります。貧血が強い場合には、輸血を行うこともあります。

④ だるさ

症状の軽いものを含めると、多くの方に現れます。しかし、肺がん自体でも同症状が出現することもあります。

⑤ 腎機能障害

個人差が大きいですが、特にシスプラチンに関連して出現することがあります。予防目的に点滴初日は比較的大量の補液を行います。腎障害がひどくなった場合には、薬剤投与を中止することもあります。

⑥ 吐き気

症状の軽いものを含めると、多くの方に現れます。吐き気止めを使って、できるだけ吐き気が出ないようにします。症状が高度の場合は、2 コース目より予防薬を追加することがあります。

⑦ 吃逆(しゃっくり)

治療開始から7日以内に起こることがあります。症状が続く場合は、吃逆(しゃっくり)をとめる薬を使用することもあります。

⑧ 皮膚障害

皮膚に発疹、かゆみ、皮膚色素減少症(皮膚の一部が白くなる)が現れることがあります。とくに、全身に赤い斑点・水ぶくれ、ひどい口内炎が現れた場合は、すぐに担当医にお知らせください。

⑨ 甲状腺機能障害

新陳代謝を活発にする甲状腺ホルモンなどを分泌する内分泌器官に炎症を起こすことがあります。いつもより疲れやすい、脱毛、体重の増加・減少、動悸が見られることがあります。定期的に甲状腺機能の検査を行います。

⑩ 副腎障害

副腎機能が低下することで血糖値が下がることがあります。定期的に血液検査を行います。

●時として起こる副作用

① 便秘

抗がん剤治療を受けている間、便秘が起こることがあります。便を柔らかくする薬や腸の動きを促す薬を使って、便秘を改善するようにします。

② しびれ

症状の軽い方がほとんどですが、治療を始めて 1~2 か月後から、手足や足先にしびれが出る場合があります。治療終了後も症状が続く場合があります。

③ 脱毛

治療開始 2 週間後くらいから髪の毛が抜け始めます。しかし治療が終了して 1~2 か月後には髪の毛が生え始め、6~7か月後には、治療前と同じくらいまで生えそろういます。

④ 大腸炎・重度の下痢

下痢や、大腸に炎症が起こる大腸炎を発症することがあります。下痢、排便回数の増加、腹痛、便に血が混じる、便が黒いなどの症状が現れた場合は、すぐに担当医にお知らせください。

⑤ 1型糖尿病（劇症型も含む）

糖尿病を発症することがあり、インスリン治療が必要になります。急速に進行することがあります。のどの渇き、水を多く飲む、尿の量が増えるなどの症状が現れた場合は、担当医へお知らせください。

⑥ 脳炎

脳や延髄に炎症が起こり、嘔吐、体の痛み、精神状態に変化が現れることがあります。担当医へお知らせください。

⑦ 下垂体機能障害

ホルモンの働きをコントロールしている脳下垂体に炎症が起きたり、その働きが低下したりすることがあります。頭痛、体がだるい、視野が狭くなったり欠けたりする（視野障害）などの症状が現れた場合は、担当医へお知らせください。

⑧ 眼の異常

眼乾燥や眼の違和感、視力低下が起こることがあります。

⑨ 薬剤注入による反応

点滴中または投与後に発熱、悪寒、ふるえ、かゆみ、発疹、高血圧や低血圧（めまい、ふらつき、頭痛）、呼吸困難などが現れることがあります。点滴中や点滴後 24 時間以内にこのような症状が現れた場合は、担当医にお知らせください。

●まれにしか起こらないが重い副作用

① 間質性肺炎

間質性肺炎（肺臓炎）は、発症した患者さんの半分近くが命をおとす危険な副作用です。風邪のような症状（咳がひどくなる・息切れ・発熱など）が現れたら、担当医に伝えるようにしてください。

② アナフィラキシーショック

極めて稀に、点滴中にショック状態や呼吸困難が出現することがあります。点滴中に痒みが出たり、息苦しくなった場合には、すぐに知らせてください。

③ 重症筋無力症・筋炎

神経から筋肉への情報の伝達がうまくいけなくなり、筋肉の炎症を伴うこともあります。息苦しい、足・腕に力が入らない、ものが二重に見えるなどの症状が現れた場合は、担当医にお知らせください。

●その他注意すること

① 血管外漏出

抗がん剤が血管の外に漏れることで組織の障害（炎症・壊死）などをもたらします。点滴中に痛みが出現した時にはすぐにスタッフへ教えてください。また組織の障害は数日経過してから起こることもあります。

抗がん剤治療による様々な副作用は上記以外にも起こることが報告されています。適切な治療を行ったにも関わらず、お亡くなりになる方もいらっしゃいます。上記のような症状、または上記以外でもいつもと違う症状が出た場合は、担当医まで連絡してください。

以上がん化学療法について説明をしました。 西暦 年 月 日

地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立循環器呼吸器病センター

@USERSECTION 担当医師

上記について担当医から説明を受け、納得しましたので治療を受けることに同意します。

西暦 年 月 日

患者氏名 _____

親族又は代理人(配偶者・父母・兄弟姉妹・親権者・保護義務者・法定代理人・その他)

氏名 _____

続柄 _____